



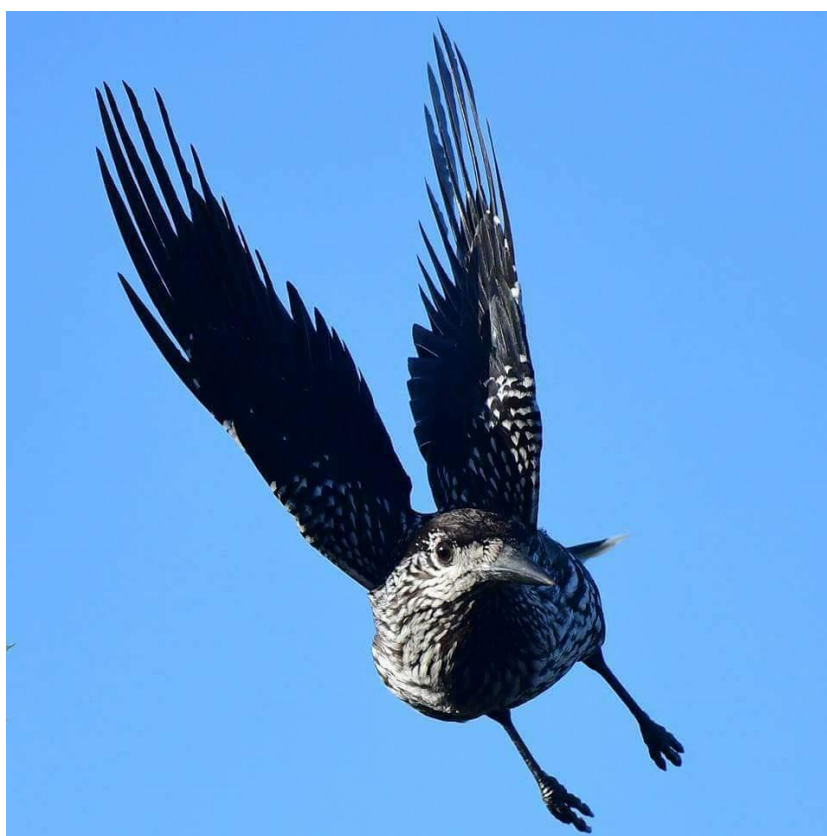
自然観察

No.126

2018.10月

目次

・2018 年全道研修会実施報告～見事な軍艦岩とテシオコザクラとオゼソウの群落を見学～	2
・2018 年全道研修会(道央ブロック担当)報告 北海道博物館主催「松浦武四郎展」及び「常設展」見学	3
・森と池の生き物たちを観察しよう	4
・特別レポート 野生の「睡蓮」とは?	5
・フィールドニュース	7
・催し物のご案内	9
・観察部からのお願い・観察会参加費に関するお知らせ	9
・ウォッチングレポート	10
・参加者の声	14
・感動!・出会い!・驚き!	15
・事務局だより・連絡先	16



ホシガラス

撮影地 十勝

2018年全道研修会実施報告

～見事な軍艦岩とテシオコザクラとオゼソウの群落を見学～

相原繁喜

1. 日程 2018年6月4日(月)～6月5日(火)
2. 場所 (1)中頓別鍾乳洞公園(枝幸郡中頓別町)
(2)北海道大学天塩研究林(幌延町間寒別)
3. 参加者 8名(会員5名、一般3名)
 - ・地域別～旭川1名、札幌4名、雄武2名、遠軽1名
 - ・年齢構成～20代1名、50代1名、60代2名、70代4名
4. 協力 宿 泊：ピンネシリ温泉望岳荘(中頓別町敏音知 2日目昼食含)
交 通：JR札幌・稚内間特急、宗谷バス・自家用車(乗り合わせ)
研究林入林申請：現地会員(三浦氏)
観察コース下見：(5/26)現地会員・副会長(1)・研修担当(1)
5. 観察コース ①宗谷自然学校(中頓別町)職員2名～1日目昼食・現地案内
②中頓別鍾乳洞公園(中頓別町旭台)
～各種6月期の植物、石灰岩鍾乳洞・奇岩(軍艦岩)
③北大天塩研究林～技術専門職員案内
～テシオコザクラ・オゼソウ(テソウ)群生地、アカエゾマツ林他
6. 報 告

第1日目、天気晴れ。昭和8年北海道で最初に発見された中頓別鍾乳洞は、石灰岩に貝殻片(ホタテ貝やフジツボ類)が密集して出来た約一千万年前の地層の中に発達した鍾乳洞である。確かに鍾乳洞内の気温は12度ほどで冷気が感じられ、岩肌には貝化石片が多数見られた。貝殻石灰岩は溶食(浸食)を受けやすく、観察路内にはドリーネと呼ばれるすり鉢状の窪地があり、地下水となって鍾乳洞につながる地表水(雨水他)の入口となっているのが観察できた。次に園内では地殻変動で隆起した石灰岩が長い年月をかけて溶食を受け、軍艦岩と呼ばれる硬い部分が残った見事な巨岩があった。その岩肌には水流の浸食が痕跡として残っていた。また、観察路には、エゾノリュウキンカ、エゾノレイジンソウ、オクエゾサイシン、マムシグサ、アオチドリ、ハクサンチドリ、ルイヨウショウマ、クルマバツクバネソウ、エゾワサビ、オオバタケシマランなど、花をつけたものも多く種々の植物を観察できた。



軍艦岩の前に一列に整列

第2日目も天候に恵まれ、アカエゾマツ林が広がる知駒岳を望みながら道々785号線を進み、北大天塩研究林入口に到着。次に天塩川水系パンケルペシュペ川を渡り、歩道入口から約1.6km川沿いを進んでテシオコザクラとオゼソウの群生地に着。開花のピークは過ぎていたが、咲き残っていたテシオコザクラやオゼソウを堪能することが出来た。それらは日射しを避けるように、河川付近の蛇紋岩質土壌の斜面崩壊地に群生していた。歩道沿いでは、蛇紋岩地域特有種も含め、アポイタチツボスミレ、エゾミヤマクワガタ、アカミノイヌツゲ、コヨウラクツツジ、イソツツジ、ハクサンチドリ、ワラビ、シロウマアサツキ、ツバメオモト、ミツバオウレン、ヒメナツドウダイ、エゾタカネニガナなどを観察できた。

また、テシオコザクラ群生地 of 河原では、暗緑色の新鮮な蛇紋岩が多く見られ、磁鉄鉱の鉄分やマグネシウムを多く含むことから、持参した紐につるした磁石がよく吸い付いた。

7. 研修を終えて

今回の研修会の実施に当たっては、受入決定が5月に入っていたことや引率案内人員が途中で変更になったこと、更に参加者が少人数でバスの手配が難しくなったことなど、諸課題があったが、本会役員の皆さまのご理解と参加者のご協力により、所期の目的に近づけることが出来、誠に幸いである。

今後も従来の実績を踏まえ、本会の組織を生かした全道的な意義ある研修会を計画的に推進すべきであると、帰途参加者の笑顔を拝見しながら改めて感じた。



オゼソウの群生地

2018 年 全道研修会（道央ブロック担当）報告 北海道博物館主催「松浦武四郎特別展」及び「常設展」見学

横山武彦

今年は「北海道」の命名から150年、名付け親ともいわれる松浦武四郎を知る特別展示が北海道博物館（札幌市厚別区厚別町小野幌53-2）で開催されていることから、今年度2回目の全道研修は、2018年7月13日（金）、開催中の「松浦武四郎特別展」と「常設展」の見学をテーマに実施されました。参加者は21名でした。

午前「松浦武四郎特別展」見学。博物館学芸主幹で近世・近代の歴史が専門の三浦泰之氏からこの特別展開催の意義と松浦武四郎の人物像、略歴、6度の蝦夷地踏査（一部、樺太・国後・択捉を含む）、明治維新の志士との交流、アイヌとの交流や施策への諸提言などについてグループレクチャーを受けた後、2時間、各自展示を見学しました。武四郎自筆の野帳や地図、スケッチ、蝦夷地踏査の記録をまとめた日誌や報告、書簡、蒐集品など膨大な資料の展示に、参加者からは再度訪れてゆっくり見たいとの声も多かったです。

午後は「常設展示」を見学。博物館学芸主幹で考古学が専門の右代啓視氏が各展示について順次解説。北海道の先史時代の旧石器～縄文～続縄文～擦文・・・と続く北海道の気候変化とマンモス象・ナウマン象などの移動、狩猟・採集生活と石器・土器や生活用具・副製品などの変遷と衣食住や精神文化の関連について、参加者からの質問にも答えていただきました。常設展の展示の半分に満たない明治以前の交易についての展示のところで見学ツアーの予定時刻を過ぎたため、右代氏による解説付き見学を終了。残りは参加者の自主見学とし、流れ解散として研修会を終えました。

森と池の生き物たちを観察しよう ～親子夏休み自然観察会～報告

実行委員長 三澤英一

7月28日、札幌市北方自然教育園で親子夏休み自然観察会を開催しました。小学1、3年生の兄弟親子と小学6年生親子の2組と参加者は少なかったものの、天候に恵まれ、午前中は自然観察林（森）と池（水辺）での観察・採取、昼食をはさみ午後からは観察会の記録まとめと発表を行いました。以下は参加者の原田君の感想文です。

北方自然教育園は自然の生き物や植物がいる所です。ここで見たおもしろい生き物を書きたいと思います。

まず、最初に見た植物はトチノキという木です。トチノキの葉を見たとき「どこが一枚の葉でしょう」とガイドさんに聞かれました。私は、茎につながっている葉っぱ一枚一枚が葉だと思っていましたが、正解は茎につながっている葉っぱの部分全体だったのでおどろきました。次に見たのはオニグルミという木です。この木は葉の取れた所をみると、その取れた部分がサルの顔のような形をしていました。カマキリやヤギの顔にも似ていました。

森の中を出ると池があります。池の中でみためずらしい生き物はコオイムシという生き物です。私が見つめたコオイムシはメスでしたが、オスはたまごを背中にせおっているそうです。学習館の中には蚕、カブトムシやトカゲなどのたくさんの生き物がいました。他にもコオロギだけの部屋もありました。

植物や生き物の本ではのっていないようなことをガイドさんに教えてもらったことが面白かったです。自然観察会に参加してよかったです。自由研究でもさらにくわしく調べました。また行ってみたいと思いました。

原田健光（厚別通小学校6年）

注）原田君は、この観察会で学んだことをもとに夏休みの自由研究にして学校に提出。さらに北海道自然保護協会の夏休み自然観察記録コンクールにも応募しました（結果は8月末段階で不明）。

【反省】

今回も参加者は小学生3名と少数でした。その理由として、①広報のしかた：ウォッチングガイドや本会の自然観察会スケジュールには載ってはいますが、積極的に情報収集しないかぎり情報が得られにくいと思われます。昨年の観察会も会員の掘り起こしでの参加でした。②他の小学生向け親子観察会との競合：野幌森林公園ふれあい交流館の「めざせ虫博士」や札幌市公園緑協会の「ひらおか自然まると探検隊」は同じ日の開催でした。③自然教育園の協力体制：林内歩道の整備、池の水際の草刈りなど観察しやすい環境づくりや採集用具・文具の提供、研修室の提供など施設側の協力があり助かりました。

なお今回は教育園との共催との開催とはなりませんでした。

【課題】

①新聞や市の広報誌などを通じての募集活動が必要だと思います。また周辺の小学校や南区民センター・町センなどにポスター掲示やチラシの配布なども必要です。②小学校が夏休みの時期となると、7月第4週か8月第1週の土日しかありません。この時期は他団体の小学生向けの観察会と重なる恐れがありますがやむなしでしょう。③来年は早めに北方自然教育園に共催申請をし、教育園のHPにのせてもらうなどの協力をお願いしたいと思います。

最大限受け入れ可能な小学生の数は10名以内。それ以上になると観察場所のサイズや危険防止などから対応は難しいと思われます。来年の募集では、「先着親子10組まで」と明記することも必要でしょう。



水草（みずくさ）を描いた世界的に有名な絵画といえば、フランスの印象派の画家モネの「睡蓮（すいれん）」があります。日本でも昔から金魚鉢に「金魚藻」を入れたり、最近では“癒し”をうたった手軽な水草栽培セットがあつたり、水草は風景の一部として、人々に認識されているようです。しかし、ハス（蓮根）やジュンサイ、イネ（米）など食用・鑑賞用になるもの以外は、個別に識別して認識することはほとんど無いかと思います。そのせいか、水草の観察・解説をすると、参加者から「水草って、金魚藻だけではなく、いろいろな種類があるんですね」という声を頂くこともあります。

日本の“野生の水草”はおよそ 200 種類とされ、そのうち北海道には 100 種類ほどがあります（湿生植物を含めず、狭義の水草で考えた場合）。それらは、私たちが見向きもしないような沼や水路から湧き水を源流とする清流に至るまで、さまざまな場所で生きています。そして、それぞれが特徴ある生き方をしています。例えば、水の流れに乗って受粉する種類があつたり、水深の変化に合わせて短期間で体の形を変化させたり、陸上の植物と比べると水草は数々の「離れ技」を見せてくれます。そんな興味深い植物ですが、観察や調査となると、種類の見分けが難しく、特に水中のものは見つけにくいいため、見過ごされてしまいます。せめて見ごたえのある花ならよいのですが、多くの水草の花はシンプルで、花は数ミリ～数センチと小型、花びらの色は白や緑で、花びらが退化するなど、繁殖に必要な最低限の部分しか備えていません。

その中であって、花や葉が大きく見つけやすいのがスイレン科です。スイレン科の学名 *Nymphaeaceae* も“妖精”という意味のラテン語に由来するほどで、水草界のきれいどころが集まっています。日本のスイレン科には、ヒツジグサ属、コウホネ属、オニバス属の 3 つのグループが含まれます。本稿では、いわゆる睡蓮が含まれるヒツジグサ属について、北海道内での観察に役立つであろう特徴と見分け方を簡単に紹介します。（以下、表現としてスイレンと睡蓮が出てきますが、生物学的な個称を表す場合は片仮名で表記し、一般的な通称やイメージを表現する場合は漢字にしています。）

◆ヒツジグサと園芸スイレン

日本にもともと自生するヒツジグサ属は、ヒツジグサ 1 種だけです。葉と花は水面に浮き、花の色は白で、ピンクや黄色はありません。花のサイズは直径 5 センチから 10 センチ弱です。湿地に生え、かつては札幌周辺の平野部でも見られました。

一方、道内各地の湖沼の風景を彩っているのが、外来種の園芸スイレンです。観光名所となっている場所もあり、もともと自生していたものと勘違いされることもあるようです。しかし、



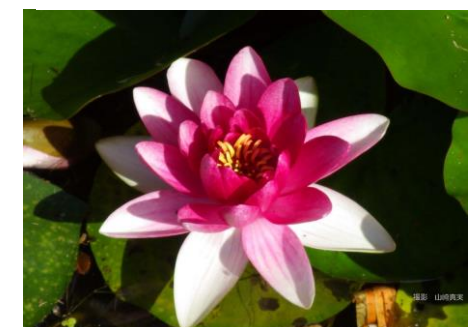
写真：ヒツジグサ属



写真：コウホネ属



写真：ヒツジグサ。真上から撮影。



写真：園芸スイレン

上記の在来種のヒツジグサに比べて、花が直径 10～15 センチと大きく、花の色も赤紫や純白、レモンイエローなど艶やかです。ホームセンターで「温帯スイレン」という名前で売られています。また、殖え方にも違いがあり、ヒツジグサはあまり根茎を伸ばしませんが、園芸スイレンは横に長く根茎をのばし、そこに新しい株が次々とできて成長し水面を広く覆うように密生します。さらに、ヒツジグサは湿原など水中の栄養分の少ない環境（貧栄養な水質）を好みますが、園芸スイレンはあまり場所を選びません。



写真：園芸スイレンの群生

冒頭のモネの絵画があまりに有名なので、睡蓮と言えば淡いピンクの花をイメージするかもしれませんが、日本の風景では本来は見られない風景なのです。花に罪は無いのですが、この園芸スイレンが日本各地の自然湖沼で繁茂してしまう例が後を絶ちません。一般にはヒツジグサだけを分けて認識している人は少なく、同じような形のものは全て「睡蓮」として見ているため、自生種との混同が起きています。この誤解を避ける意味でも、最近の水草関係の図鑑や報告記録では外来のヒツジグサ属は「園芸スイレン」と表記して区別されています。

◆睡蓮と蓮（はす）は別の植物です

睡蓮と蓮は、「水草と言ったらこれ！」というくらい水草の一般的なイメージとして定着しているかと思います。見た目にも水の上に比較的大きな花が咲くこともあり、睡蓮と蓮は同じものと誤解を招きやすいようです。しかし、ハスはスイレン科ではなくハス科ハスという別の植物です。



写真：ハスの花

大きな違いは葉の形状で、スイレン科ヒツジグサ属は V 字の切れ込みのある円い葉が水面に浮くのに対して、ハス科ハスは葉に切れ込みが無く円い平皿のような形で、水面から 1 メートルほど直立した茎に葉と花をつけます。なお、北海道内のハスは園芸スイレンと同じく、人間が植えたもので自生はありません。

◆水草に視線を！

水草の生息地は、様々な理由で全国的に減っています。そのため、絶滅危惧種になっているものも多くあります。その一方で、水辺の植物を気に留める人が増えてきた（？）ことで、チシマミズハコベ、ウキミクリ、ヒナミクリなど道内で新たな生息地が見つかったものもあります。

かつて日本は「豊葦原瑞穂国」（とよあしはらみずほのくに）と言われたほど、豊かな水とそこに育つ植物が人々の生活の近くにありました。札幌も石狩湿原の一部だった場所で、今も私たちの生活圏の意外と近くに水辺があります。ただ、水草は整備された場所よりは、野性味あふれる水辺のほうが多くの種類が観察できます。ぜひ、夏の野外活動にお出かけの際には、水中の植物にも目を向けていただければと思います。新たな発見ができるかもしれません。



写真：ハスの葉。直立する葉と同時に、水面に浮く葉もつける。

※スイレン科のオニバス属は、北海道には分布しません。

札文島訪問記

千歳市 行徳真一

今年の8月上旬に、仕事の一環でしたが機会がありまして札文島に行って参りました。札文島は日本の最北にある離島ですが、別名「花の浮島」と呼ばれています。それは何故かという、会員の皆様でお花好きの方ならば、今更説明は要らないとは思いますが、簡単に説明しますと、日本で一番北の島という立地条件から、海拔0メートルから高山植物が咲くと言う、札文島独特の植生が見られるからです。花の開花シーズンは6月上旬からで、その頃からハイキングやトレッキング客で賑わう島であります。私が聞いた限りでは、お花の見頃は6月頃から8月頃までだそうです。開花シーズンになると、島内に咲き誇るお花の種類は約 300 種類にもおよぶと言われておりますが、特にその中で札文島固有種のレブンアツモリソウやレブンウスユキソウ、レブンキンバイソウなどが有名で

す。滅多に訪れることができない島だけに、もし行くのなら目いっぱい楽しみたいですね。今回は「花の浮島」と呼ばれる札文島を私が体験で

きた範囲でザックリとご紹介いたしますので、いつか行きたいと思っている皆さまの参考になれば幸いです。

私は、札文島トレイルマップ（ <http://www.rebun-island.jp/welcome/trekking.pdf> ）に掲載され、島の南端部のトレッキングコースである「桃岩展望台コース」を仕事の合間をぬって実際に散策してきました。散策した日はあいにくの天候で、コースは深い霧に包まれていました。桃岩展望台コースの標準的な所要時間は、片道約 140 分ですが、私は駆け足で廻りましたので約3時間で往復してきました。そのなかで観察できたのは、レブンウスユキソウ、レブンキンバイソウ、エゾノイブキトラノオ、チシマフウロ、エゾニュウ、レブンシオガマ、エゾカワラナデシコ、オニシモツケ、エゾカンゾウ、オオダイコンソウ、エゾノコギリソウ、トウゲブキ、イブキジャコウソウ、ツリガネニンジンなどでした。残念ながら札文島固有種であるレブンアツモリソウは、開花シーズンではなく群生地でもありませんでしたので、観察することはできませんでした。なお、札文町で経営する高山植物園に行くと、8月中旬までは温度管理されたレブンアツモリソウが観察できるそうです。初めて来島するお客が実際に散策するのであれば、香深港フェリーターミナル内部の一角にある「札文なんでも情報発信局」で情報収集するのがおすすめです。そこでは、トレッキング客によるお花の目撃情報が知り得ることができますので、見頃を迎えているお花の情報が収集できま

すよ。香深港フェリーターミナル内部の「札文なんでも情報発信局」。ここでお花の目撃情報が収集可能です。



アライグマがやって来た

余市町 鳥澤哲子

昨年（2017年）5月中旬の夕暮れどき、カーテンを閉めようとしたところ、我が家の庭を1匹のアライグマが歩いて行きました(写真1)。猫よりも大きくてずんぐり丸い感じで、シマシマの尻尾。体長は60cm程でしょうか。薄明りの中、可愛い顔立ちも分かる程度の速さで通り過ぎて行きました。キツネは時々見かけていたので、アライグマもその日偶然に通り掛かったのだろーと思っていました。



写真1

ところが、翌日も同じ位の時間に同じ方向へ向かって歩いて行くので、外に見に行ってみました。アライグマは近くの側溝（幅、深さ共に約1m）に降りて行って、なんと底に溜まっている水で手を擦り合わせていました。「本当に洗っている！」何を洗っているのかは分かりませんでした。アライグマの名前は前足で物を洗うような動作をすることから付いた、英名の「raccon（手を擦り合わせる）」からきているそうです。すぐに側溝のトンネル状になっている部分に入ってしまったので、その後は観察できませんでした。

しかし、その日以降も同じ時刻に同じ方向からやって来たので、ねぐらが近くにあるのかもしれないと思い観察していると、すぐ裏の空き家が棲み処になっていて、その壊れた窓から出入りしている事が分かりました(写真2)。空き家の持ち主に連絡したところ、間もなく余市町の職員が来て、アライグマの捕獲用の箱わなを設置して行きました。

余市では、農家の畑のイチゴをへたの部分だけ残してきれいに食べてしまうとか、トウモロコシの皮も上手に剥いて食べていたなど、農作物への被害は随分前から聞いていましたが、実際にアライグマを見たことはありませんでした。アライグマは夜行性のため、行動を始めるのは日没後薄暗くなってから日が昇る前までの時間帯らしく、身近にいても今まで気が付かなかっただけなのかもしれません。

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課のホームページ (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/araiguma/araiguma_top.htm 2018年7月22日閲覧)を見ると、アライグマの生息・目撃情報のある市町村数が平成4年度には13市町村でしたが、平成9年度には24市町村に増え、初めて9頭の捕獲数が棒グラフに表れています。そして平成28年度のアライグマの生息・目撃情報のある市町村数は149市町村に増え、平成28年度の全道の捕獲数は12,354頭となっています。また平成28年度の捕獲数で最も多い地域（振興局別）は空知地方、次いで胆振地方となっています。

アライグマは北米原産の動物で、昭和55（1977）年に放映されたテレビアニメがきっかけとなってペットとして大人気となり、多い年では年間1,500頭もの個体が輸入され盛んに飼育されたそうです。しかし、その後逃げ出したり捨てられたりして野生化したものが、生息域を拡大していったと考えられています。



写真2

平成17（2005）年に「特定外来生物法による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が施行され、アライグマも特に侵略的な外来種「特定外来種」に指定されています。翌年4月に北海道が「北海道アライグマ防除実施計画」を策定して、今後の対策の進め方についてホームページ（同上記）に載せています。私が見たアライグマは、結局わなに入ることはなく、その後1か月程でねぐらにしていた空き家を取り壊されて、行方知れずとなりました。さまざまな動植物を幅広く捕食する雑食性を持つと言われるアライグマは、エゾアカガエルやエゾサンショウウオなどの両生類をはじめ、在来生物への影響も報告されているそうです。アライグマが爆発的に増えて大きな問題となっている今、自分たち人間の責任を痛感せざるをえないとともに、我が家にやって来たアライグマが捕まらずにホッとしてしまったのは確かで、とても複雑な気持ちになりました。

クリンソウのこと

北見市 竹林順子

毎年4月の末、端野のカタクリの森に可憐なカタクリの花が咲く。そのカタクリの咲く山の斜面に続く林道のあちこちにクリンソウの若芽が顔を出す。やがて、カタクリの花が咲き終わり3陵形の実をつける5月中旬になるとクリンソウの花が咲き始める。人がほとんど入らないカタクリの森では数10mの林道を埋め尽くすほどの勢いになる。今は乾燥して環境が変わってきたが、少し前までは、ローズ色のクリンソウと白いコンロンソウが競い合うように混在して咲き、それは見事な光景だった。

そして、私の家の庭の側に湿地を好むクリンソウにピッタリの今は使われていない排水路がある。そこに実家から3株のクリンソウをもらい植えた。雑草を取り手入れを続けていたら今年は何と23株に増え、6月下旬までお花見を楽しんだ。大切に愛でてゆきたい。

催し物のご案内

2018 北海道自然観察協議会指導員フォローアップ研修会

◆日時 平成30年11月17日(土) 18時～20時

◆場所 札幌エルプラザ2階・環境研修室1(札幌市中央区北8条西3丁目)

◆参加費 300円

◆研修内容

・テーマ『失敗談から学ぶ観察会の開き方』

2人の指導員から「ここがうまくゆかなかった観察会実施の反省点」と題して話題提供を受けた後、「失敗談から学ぶ観察会の開き方とは」について参加者全員で経験交流・フリートーキングを行います。参加希望の方は、村元(Tel.011-694-5907、e-mail cin55400@rio.odn.ne.jp)までご連絡ください。

観察部からお願い

観察部では、全道各地の皆さんから来年度の観察会企画を広く募集します。

つきましては、今年度観察会予定表に準じ、「月日」・「観察地」・「テーマ」・「集合場所」・「時刻」・「交通機関」・「連絡先」等の各項目を記載し左記宛て郵送、またはメールにてお送りください。なお、保険適用(観察会集合場所から解散場所まで)の関係上、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりませんので企画立案の際にはご留意願います。

募集期間は、12月31日までとし、観察部にて日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正は、1月末まで受付いたします。観察部 山形誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

Mail seichi.y@com.home.ne.jp

観察会参加費に関するお知らせ

従来、観察会参加費の中から、資料代、参加者名簿の郵送費など観察会に関わる必要経費を差し引いて、残金を観察部会計へ振り込んでいただいていたが、赤字となる観察会があることや、会員数の減少、諸経費の値上がりなどを受けて、現在理事会において、観察会参加費の値上げを検討しております。この件に関しては、来年4月の総会において承認が必要となりますが、それとは別に、すでに一部の観察会では、独自の参加費を設定している観察会も在ることから、来年度観察会企画の中で、博物館や資料館への入館を含んでいる際の入館料、また下見の際の諸経費など、前もって支出の見込まれる観察会企画に関しては、良識の範囲内で独自に参加費を設定していただき、観察部のほうへお知らせいただきたいと思えます。来年度観察会予定表から「集合場所・時刻・注意事項」欄への記載を行いたいと思いますので、よろしく願います。

また、この件に関してご意見、ご質問のある方は、観察部山形までお知らせください。



旭川市 嵐山公園観察会

2018・3・18

3・18 (日)、晴、時々風(5m/s) あって寒く感じるときもあったが、おおむね良好の観察日和。参加者・自然観察指導員各9名とちようど観察会には手頃な人数に感じた次第。

スノーシュー観察会・出発9..00だが、装着時間を見込んで早めの集合を呼びかけたところ、全員が出発前にスノーシューを装着済みで、運営は楽だったといえるかも。挨拶の中で、本日のキーワードがエゾシカ・食害・樹木・鳥類であることを告げ、準備体操後に2班(1班柳田和美、2班山本牧)に分けて出発。参加した自然観察指導員もそれぞれの班に入ってもらった。下見(3・11)5人で終わってからは、上記のキーワードを決めていたが、本番でもほぼキーワード通りの自然観察会となった。

9..00~12..00の予定だったが、柳田の勘違いから1時間も早く終わってしまった(9..00~11..00終了)。嵐山展望台で1班と2班を入れ替えて2班から下山。標高差150m、歩行距離約1.8km
1班は先行していたせいもあった、「生きた」エゾシカ御一行をカウントすると、総数50頭以上になった

と思われる。足跡とか糞・獣毛(早い個体では毛が生え換わってきているらしい)にも「恵まれ」、樹皮がしつかりと食害されている箇所はあきれるほど多数存在するので、探す手間はいらなかった。エゾシカの角擦り跡は確認できなかった。2班では1班がエゾシカを「蹴散らして」移動するので、確認頭数かなり少なかったとのこと。冬芽や植物の種子が残っているものなどの説明があまりしなかったが、エゾシカに圧倒され、興味・関心の中心となった観察会です。

食害樹木は、オヒョウニレ・ハルニレ・アズキナシ・ミズキ・ヤマゲワ・ニガキ・シウリザクラであり、すべて説明出来た訳ではなかったが、参加者の中に樹木に詳しい方がいたので、その方の説明(ニガキ等)も



嵐山公園自然観察会

取り入れさせてもらった。
鳥類も予想外の種(オオアカゲラ)

も至近距離に出て、それなりに盛り上がる。特に前半にヒヨドリ・トビ・ハシブトガラス・コゲラ・アカゲラ・ヤマゲラ・キバシリなどが鳴声も入れると確認できた。キツツキ類では古い巣穴・採餌痕なども確認。
後半ではハクチョウ20羽ほどの編隊が上空通過、エナガ・ヤマゲラ(参加者が確認)・フクロウも確認でき、なかなか賑やかな雰囲気でした。

(柳田和美)

小樽市 「旭展望台」観察会

2018・4・29

天候に恵まれた中、旭展望台を目指し商業高校前を出発。エゾタシロポ、エゾイラクサ、シウリザクラ、キクザキイチゲ、エンレイソウ、ツノハシバミなどを見ながら、所々で参加者の皆さん方に、クイズ形式で質問を出して答えてもらいました。

めざすカタクリの花は、遊歩道の中で見事な群落で咲いていました。

最後に、解散地点の小林多喜二の文学碑の前で、文学に詳しい指導員による説明と朗読を聞き解散となりました。

(目下部 久)

札幌市北区 「春の北大構内」観察会

2018・4・29

動き始めた生き物のエネルギーに満たされた風情の観察会でした。キャンパス内のネグンドカエデの雄花に、珍しいとする参加者に思わず「困った木」と、声をかけてしまいました。設置されたかんらん岩から、アポイ岳を登っても固有種が見つからないと嘆きの声が聞かれました。毒草の芽出しを探しながら、キバナノアマナ、ヒメオドリコソウ、フキタンポポ、アズマイチゲ、ニリンソウ、エゾエタシロソウ、ニオイスマミレ、タチツボスミレ、ミズバショウ、ルブルムカエデ、トサミズキ、ヤナギ、レンギョウ、ネグンドカエデ、キタコブシ、ハルニレ、ヤチダモ、チシマザクラ、エゾヤマザクラ、マンサク、エゾニワトコ(蕾)などの花を観ました。遺跡保存庭園で北大の校章のオオバナエンレイソウが一輪咲いていました。

(須田 節)

恵庭市 「恵庭公園」観察会

2018・5・12

春の緑につつまれて

快晴に恵まれました。
春の緑につつまれながら、スタート。

まず、ニリンソウの群落がちやうど満開で見事でした。
オオバナノエンレイソウ、ホソバノアマナなどの白い色の中に、名残のエゾエンゴサクの青紫が色彩を添えていました。
クロツグミ、センダイムシクイ、ニユウナイスズメ、キビタキの声を聴きながらゆったりと観察会を終えました。
(富田智恵)

苫小牧市 「春の錦大沼」 観察会

2018・5・13

朝からの雨。札幌や恵庭から参加してくれた皆さんは、苫小牧との差、温度や地形、地質、植物の育ち方などに詳しく、苫小牧の特性、地域性に好意を持って観察してくれました。

春の花が咲き始め、ホソバノアマナ、ミヤマエンレイソウ、スミレ類、セントウソウ、ヒメイチゲ、ネコノメソウ、マイヅルソウ、センボンヤリなどが楽しめました。
アズマイチゲ、ミズバショウは終わったようです。

これからどんどん忙しくなりま

す。木々や草花に目が離せません。
頑張って見守って行きたいと思っています。
(白崎 均)

サロマ湖周辺 「オホーツク」 観察会

2018・5・20

5月20日、春のオホーツク観察会の初回を無事終了。

観察地1・湧別川河口岸边のカワウコロニー。3月下旬頃産卵し育雛に励む約200羽のカワウを観察。
2・河口海岸で砂鉄を手がかりに自由観察。その供給源となる黒曜石や玄武岩の山と海をつなぐ湧別川の働きを紹介。珍しいエイの卵殻も見え交流。

3・鶴沼の岸边でエゾサンショウウオの孵化する直前を観察。卵囊付近の水と湖水・海水との塩分を測定比較。

4・サロマ湖畔で縄文海進時の海成段丘を観察。

5・海底混濁流による砂泥岩の互層堆積露頭を観察。悠久の時とダイナミックな大地の動きを感得。

6・「ところ遺跡」の森でオホーツク文化の特徴と縄文・続縄文・擦文・トビニタイ・アイヌ文化それぞれとの繋がりを遺物や復元住居址を巡って学びました。(相原繁喜)

札幌市清田区 「平岡公園」 観察会

2018・5・15・20

湿原の変わる様子を見よう

晴天の梅祭り最終日です。

春紅葉もそろそろ終わりがち、芽吹きが銀白色のイヌエンジュ、オオバボダイジュ、コナラ、ヤマブドウなどの中に平岡公園最後の桜、ミヤマザクラがすがすがしい。コンロンソウ、ミツガシワ、レインプクソウ、クゲヌマラン、フデリンドウ、エゾタンポポ、マムシグサ、エゾニワトコ、アオダモの花。
アオジ、シジュウカラ、センダイムシクイ、ヤマガラ、アカゲラが餌運びに一生懸命で、われわれのことなど無視。

楽しい晩春の観察会でした。

(佐藤佑二)

旭川市神居古潭観察会

2018・5・20

石狩川の激流が峡谷を作り上げた神居古潭。河原には奇岩、怪岩が連なり、変化に富んだ景観を見せてくれます。

このような案内文で“募集”。最初、参加申し込みは少なかつた

のですが、フリーペーパーに掲載されたり、当日「野鳥の会」の方の参加もあり23名(うち指導員6名)で実施。

オオバナノエンレイソウ、ヒトリシズカ、カムイレイジンソウ、ブミアザミ、ミヤマスミレなどが見られ、鳥ではムシクイ、キビタキなど、そして隼(ハヤブサ)が上空を飛んでいるのが見られました。途中で旭川と深川の境界線を越えた神居岩(233m)頂上まで登りました。ヘビがコンクリート壁に何匹も張り付いていました。

神居古潭の観察会は、旭川では初でしたが、今までの観察会には無い様々なものが見れ、有意義なひとときでした。
(原部 剛)

札幌市手稲区 「手稲山」 観察会

2018・5・26

森の息吹を感じよう

少し肌寒い日となりました。

今回参加された方は、「手稲市民の森」は初めてのことでした。咲いている花は、ヤブニンジン、クルバマソウ、マムシグサ、ルイヨウボタン、ルイヨウショウマ、ネコノメソウ、ハウチワカエデ、マイヅルソウなどでした。

ソウの花では、雄しべ、雌しべ、子房などをルーペでじっくり観察していただきました。つぼみは、ホオノキ、シウリザクラなどで、開花はもう少し先になると思います。

途中、エゾタヌキのため糞場やエゾシカの樹木の食べ跡と糞が散策路で確認できましたので、それぞれの個体の特徴や生態を説明しました。

手稲山の自然を楽しんでいただけたと思います。(高田敏文)

千歳市 「春の紋別岳」観察会

2018・5・26

例年より雪解けが早く、頂上付近の北側の道路にいくらか雪が残っている程度でした。

登山口から少し登ったところには、コンロンソウ・ツルネコノメソウ・シラネアオイなどが咲いていました。オオバキスミレは例年2〜3合目止まりでしたが、今年はかなり上まで咲いていました。

5 合目よりムラサキヤシオが咲き、8合目よりでは蕾でした。崩落防止用の石垣の上の方に、20cmぐらいのハクサンチドリが1本だけ咲いていました。

頂上付近にはコヨウラクツツジが幾本も咲いていました。頂上からの眺めは、少しかすんでいる程度でした。

ツツドリや小鳥の声は聞こえるものの、若葉が出てきたので、姿を見ることは難しいです。でも、4合目ぐらいのところで、近くにキビタキのさえずりが聞こえるので、探していると姿を見ることができました。

オオイタドリにイタドリハムシがいました。(谷口勇五郎)

千歳市 「初夏のウトナイ湖」観察会

2018・6・2

植物は一週間遅れの感じでしたが、天候に恵まれ良い観察会になりました。

観察できた植物(花)・動物・昆虫など

木本・ライラック・カラマツ・ヤマウルシ・オニツルウメモドキ・エゾノコリンゴ・ズミ・チョウセンゴミシ・ナンテンハギ草本・ミヤマエンレイソウ・セントウソウ・ヒメイヅイ・クサノオウ・ヒメヘビイチゴ・コウライテンナンショウ・コンフリー・セ

イヨウタンポポ・エゾタンポポ・オオアマドコロ・マイヅルソウ・ムラサキケマン・ベニバナイチヤクソウ・シコタンキンポウゲ・シロスマイレ・ハルザキヤマガラシ・ヒメスイバ・オオヤマフスマ・ササバギラン・ハマハタザオ・オオバナミミナグサ

鳥類・ウグイス(s)・センダイムシクイ(s)・クロツグミ(s)・ツツドリ(s)・キジバト(s)・トビ・オオジシギ・ノゴマ(s)・カッコウ(s)

魚類・昆虫・カクモンヒトリ(幼)・ジヨウカイボン・ヨシカレハ(幼)・ユウマダラシヤクガ・クロヤマアリ・エゾアカヤマアリの集団巢

植物の生育が遅れているわりには多くの花を観察でき、また、野鳥の鳴き声も多く参加者には満足いただいた。(宮本 健市)

当別町 「北海道医療大学」観察会

2018・6・23

初夏の草花・木々

予報と違って、肌寒さを感じさせるお天気でしたが、北海道新聞に「堀田清の薬草帳」を連載中の、

北海道医療大学の堀田准教授の案内が人気だったようで、多くの参加がありました。

薬草植物園の北側に隣接する「わたなべ山」を中心に、広大な自然林の「北方系生態観察園」を観察しました。

春植物のカタクリは、すでに地面に実を落としていました。エンレイソウは、至る所でころんとした黒い実(アオミもあり)を付けていました。栽培している薬用植物トウキ(当帰)の葉を手でもんで、香りの感じ方が人によって異なることを学びました。散策路の一部が通行止めになっていたため、そこから引き返しました。

観察した花などは、チシマアザミ、ヤマブキシヨウマ、ツルアジサイ、サイハイラン、ギョウジャニンニク、サルメンエビネ、クルマバツクバネソウなどでした。(石岡真子)

石狩市 「花川南防風林」観察会

2018・7・14

花川南防風林の草花・木々・野鳥

現在の海岸線である石狩砂丘と平行に、約6000年前に海岸線であった紅葉山砂丘の痕跡が、花

川南防風林にあります。高低差数メートルの砂丘地形は、植生の違いにも現れます。まず、防風林縁の日当たりの良いところで、エゾノウワミズザクラ・オニグルミ・ホオノキ・ヤマグワなどの樹木の実を観察。林縁の下草が刈られていましたが、チョウジソウ・オオアマドコロ・マムシグサ・マイヅルソウ・ナニワズ・エンレイソウなどの実を観察しました。防風林南端の発寒川近くから森の中に入りましたが、ドロノキの綿毛（柳絮）が至る所に見られました。防風林の低いところには、ヤチダモ・ハンノキ・トクサなど湿地を好む植物が生育し、希少種であるチョウジソウやクロミサンザシと共に、かつて発寒川の氾濫原としてかなり湿った環境だったことが伺えます。紅葉山砂丘の高いところではクルマユリ・ギンリョウソウの花、クゲヌマランの実を観察しました。

（石岡真子）

札幌市北区 「屯田防風林」
観察会

2018.17.14

夏の屯田防風林とオオウバユリの観察会

連日の雨と寒気で当日の天候と開花の状況が心配されましたが、

スタート時は太陽がのぞく好天となりました。

屯田防風林は誰が何の目的で作ったのか。そこに群生するオオウバユリの生態について 観察しました。今年は、明治22年に最後の屯田兵として入植、屯田開基130年、そして「ポプラ通り」（通称 屯田防風林）が、屯田兵が自然林を残し、コの字形に農作物を東風から守るため「ヤチダモ・シラカンバ・ポプラ・ミズナラ・ナナカマド等」を植樹し約8kmの防風林を作った。平成に入り札幌市が国から約2.2kmを購入、建設省の支援を受けて、健康保安林として整備。開通20年です。今や地域の健康と憩いの場となっています。

森林と云う環境の中で「オオウバユリが群生」、今年はカラスの被害も少なく、また、春の芽吹きも多く幸運にも当日は満開日となりました。「オオウバユリ」の壮麗な群落を観賞し、その生態（種子繁殖、栄養繁殖）などを勉強しました。また、特別参加の道アイヌ協議会、栖木さんより、オオウバユリは貴重な食糧であったこと等、アイヌの歌の披露もあり、参加者一同感激に浸りました。この防風林は私達の貴重な「街中の自然」として後世に引き継いで行くことを誓い合いました。

（木村美太郎）

苫小牧市 「夏の錦大沼」
観察会

2018.17.15

残念ながらの雨。途中で雨が強くなり、予定の時間より早く終わりました。残念なことになってしまいました。

しかし参加者は多少の雨でもへたらない強い意志を持っています。草花は少ないが、木はサルナシの花や、カンボク、ナツハゼが遅れながら咲いていました。

花の終わった木には果実や種がしっかりと成長しているのが確認されます。

雨と冷害が心配される当地方ですが、強い実を付けて子孫を増やす姿を見守って生きたいと思えます。

（白崎 均）

千歳市 「秋の紋別岳」観察会

2018.9.1

風は少なく晴れた日で、眺めは良好でした。紅葉の時期はまだですが、風で落ちた葉がかなりありました。ミズナラの木があったので、持参したカシワ・ミズナラ・コナラの小枝の葉と果実のなりか

けを見せながら始めました。ドングリや付属する殻斗（かくと…俗にはかま）の比較をしました。その木にはイワガラミがとりつき、花が終わり、飾り花が数個しか残っていません。隣にはハリギリがあり、花が終わり、果実ができていました。

ゲンノショウコ・ユウゼンギク・クサノオウ・ヤブマメ・オオイタドリ・オオアワダチソウ・ツユクサなどは、花を咲かせていました。支笏湖に流入するシリセツナイ川（温泉地の飲料水とヒメマスの養殖用水）の近くに、ミソガワソウ（シソ科・木曽川の支流にちなむ）が咲いていました。そこで見えたことがあります。サラシナショウマ・ヤマハギ・センボンヤリの閉鎖花・ネジバナヤマハハコなどの花。ナワシロイチゴ・オオカメノキ・シウリザクラなどの実もありました。アキアカネや、トカゲやカナヘビの幼体もいました。

（谷口勇五郎）



参加者の声



嵐山公園

2018・3・18

旭川市 西高利一

まだ残雪深い3月18日、旭川北
邦野草園(公園センター)展望台往
復)にてスノーシュー使用の自然観
察会に参加しました。

最初に数頭の鹿に出会い、1m
ほど皮を食べられた立木や小枝ま
で食べられた倒木など被害につい
ての説明を受けました。

その後、オオアカゲラに遭遇。
お初にお目にかかれてしばし観察
アカゲラなら何度も見たが、旭川
でも何種類かのキツツキを見るこ
とができるとのこと。

展望台より旭川市を眺望したの
ち帰路へ。今度はエゾリスを見か
け、最後には守り神まで観察でき
ました。

そうそうキツネと犬の足跡の違
いも教わり、楽しい一時を過ごし
ました。次会の神居古潭も参加予
定です。ありがとうございます。

ピンニの森自然観察会に参加 して

2018・5・13

渡邊和文

前回の「植樹会」に続き、ピン
ニの森を訪れた。あいにくの小雨
模様も手伝って、3週間ぶりの森
は新緑特有の生気にあふれていた。
過去に森林科学を専攻したもの
の、登山好きが高じて足下に展開
する小さな命に目を向けることは
稀であった。マダニに気を付けな
がら、可憐に咲く花の見分け方や
食用の可否、外来種から園芸種に
いたる講師の丁寧な話は、この日
の貴重な体験となった。

ヤコブ・フォン・ユクスキュル
が唱える「環世界」の概念によれ
ば、この森のどこかに潜むマダニ
は、宿主の酪酸臭と体毛しか知覚
できないらしい。それに比べたら、
私たち人間は、彼らよりはるかに
豊かに「ピンニの森」を感じとれ
るはずだ。

かつて、この国のどこでも当た
り前にあった「里山」の維持には、
「手入れ」が欠かせないと養老孟
さんは警鐘を鳴らしている。未来
の子供たちに安心して残せるよう、
温暖化に代表される環境の激変に
も耐えるよう、生物多様性に配慮
した森づくりが望まれる。

神居古潭

2018・5・20

旭川市 尾崎 潤

旭川市内で配布されるフリーペ
ーパー「ライナー」にて、本自然
観察会の実施予定を知り、私共夫
婦で参加させて頂きました。

旭川市内に転居して約一年、身
近な地域に自然環境に接する機会
が多い土地柄、特に「アイヌの伝
承の地」「古(いにしえ)より神の
居る場所」としての神居古潭に深
い興味と強い関心があつての本企
画、その中でも自然環境と動植物
の知見を高める絶好の機会でした。

見学経路上、ツアーガイドの皆
様の慧眼溢れる御教示、オオバナ
ノエンレイソウやヒトリシズカの
小さくも可憐な花々に心を奪われ
る事がしばしばでした。

また野鳥の生態に触れる事も出
来、身近に雫を観察できた事は非
常に貴重な経験でありました。

この様な豊かな自然環境を市内
からわずか1時間程度の場所に擁
する神居古潭は正に旭川市の宝で
あり、自然資産である事を再認識
するに至りました。最後に協議会
の皆様の本企画への感謝を申し上
げると共に、今後益々の更盛を祈
念致します。

春のオホーツク観察会

2018・5・20

雄武町 石山栄美子

「はじめまして」のフリートーク
で、グッと親近感を増した方々と
の「春のオホーツク観察会」は、
中味の濃い新発見続々の一日でし
た。

開花後、緑色の玉を付けている
キタミフクジュソウを皮切りに、
凶鑑でしか見たことのない川鶴と、
驚くばかりのコロニーの存在。丁
寧な相原さんの観察ポイントの解
説を聞きながら、一日中観察して
いたい心境でした。

その後がまた、ワクワクな出会
いばかり。エゾサンショウウオは
卵観察だけでなく、現地で塩分濃
度計測しての生態系の疑問や、不
思議の解説に心から納得です。

サロマ湖形成、路頭、常呂遺跡
見学で、億単位の昔に思いをはせ
ながら、手づくりの「観察会とし
おり」は、今日の宝物になりました。

「楽しかった!!」また参加しよ
うね」が、祖母、娘、孫のごとき
年齢構成で参加した私達4名の一
致した感想です。ありがとうございます。

「奇跡の自然砂浜海岸オタネ浜を歩く」の観察会に参加して

2018・6・17

札幌市 鈴木 智

参加要領に帽子、水とあり準備して臨みましたが、ほど良い気温、曇天、時折優しい風で、とても条件に恵まれました。

河川沿いに歩き海岸を歩くコースでどんな発見が、また一緒に参加する方や指導員の方とどんな会話が出来るか期待しての参加でした。

河川沿いには、ほとんど日常見かける外来植物や在来種でしたが、皆がそれぞれ1つの花にいろいろな意見や自分の経験、知識を語るのを聞くのは楽しいことです。ブタナ、ヨモギ、ニセアカシアについてそれぞれストーリーを楽しく聞きました。

海岸に出ると集落についての話と園芸種の花の存在が以前、人が暮らしていた証しだと説明を受け、興味深く思いました。

ただ、バギー車の跡の自然回復力や風力発電工事進行に伴う地下水位の変動が生態系に与える影響などテーマがてんこ盛り過ぎて、奇跡の自然海岸テーマがばやけたように思いました。

「星置川生き物」観察会

2018・7・8

札幌市 伊藤 颯真

きょうほしおき川に行つて、ほしおき川にいる生物のかんさつに行きました。

天気はとてもよくて、じつさいに川に入つてみたら、前の日、雨がふつたので、川の流れが早かったです。川のふかさはふかいところで、おとうさんのひざくらいでした。みさわコーチといっしょに大きなあみを使ってウキゴリやヘビトンボなどをつかまえました。

ほかにはウグイ、ヤマベ、エビなどがいました。

みじかい時間でいろいろな生き物をたくさんつかまえて、とてもべんきようになりました。

「花川南防風林」観察会

2018・7・14

石狩市 竹田 芳範

実は、2016年の秋に知人から石狩でチョウジソウを見られるところがあるんだと教えられました。その場所が花川南防風林でした。それまでは全く何も知らない花でした。長い冬が終わるのを待って、待って去年初めて本物に出会ったときの感動は今でも忘れ

ません。どうやら私は青色や紫色の花が好きなようです。例えばフデリンドウ、タチギボウシ、サワギキョウ。

今年の6月5日にこの地に来たときは、チョウジソウはほぼ満開でしたが、花はこの日までに果実に変化していました。果実は二又に分かれた太めの楊枝のようでした。インターネットで鞘の中の画像を見ることが出来ましたが、不可思議な形をしていました。そのまわりにあったオオアマドコロも花は終わっていて、黄緑色の丸い種子がたわわにぶら下がっていました。

次に、防風林の東端へ行き、ラン科のエゾスズランをいっぱい見た後、スタツフのIさんが言っていた、「珍しいキノコを見られますよ」の方へと向かいました。「これがそうですよ」と言う方に目をやると、先端に赤い部分がある、棒状のキノコが地面に生えていました。

こんな形のキノコもあるんだと驚かされました。聞けば、キノコの先端部分には悪臭を放つ濃いオリブ色の粘液(グレバ)が付着して、そのグレバが放つ匂いにつられて虫が集まるんだそうです。

会の終盤はクルマユリ、ギンリョウソウ、ウメガサソウ、イチヤクソウの観察でした。地元石狩に、

こんなにも豊かな自然が残されていることに驚かされました。

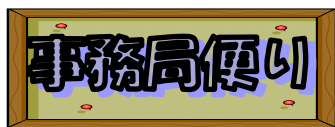
感動！ 出会い！ 驚き！
一つ目小僧との出会い

以前にも見たが、今回も近くの山で見た。一つ目小僧を！
この一つ小僧に見えるのは、白樺の枝が折れた箇所が発生するもの。薄暮から夜にかけて遠くから見ると、木肌の白をバックに一つ目が浮かび上がって、あたかも水木しげるの妖怪の一つの「一つ目小僧」の目に見えてくる。

真つ暗な山道を酒に酔った人が、道の傍に立つこのような木に出くわしたら、一つ目小僧が出たと思うだろう。妖怪の一つ目小僧の正体を見たりと感動するなり、驚いた。

(村元健治)





☆第 126 号をお送ります。今回は、研修会報告が多くを占めています。なかなか、皆さま方のご参加が難しいようで、企画・主催した側にとって、残念なことと思っています。全ての研修会に参加するのは、難しいものと思いますが、興味・関心ある研修

会にはぜひ、ご参加願いますようよろしくお願い申し上げます。

☆昨年度から、諸般の事情で会報の発行は年3回となりました。発行回数が1回減りましたが、掲載する記事の分量は変わりません。そのようなことで、とくにウオッチングレポートを中心に折角、原稿を送付いただいても掲載が遅れ気味で執筆者にご迷惑をかけていました。

そこで今回から、「ウオッチングレポート」と「参加者の声」の欄の体裁を縦書きとし、文字自体も少し小さくして極力、沢山掲載するように変えてみました。少し読みづらいきらいはあると思いますが、よろしくお願いします。

☆会員名簿、ようやく出来上がりましたので、同封いたします。結局、従来スタイルと変わらないものとなりましたが、くれぐれも個人情報ですので、管理には十分、気を付けてくださいますようよろしくお願い申し上げます。

☆6月8日付けで「生物多様性さっぽろ応援宣言団体」として登録

札幌市が募集している「生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体」に、宣言文「自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探究し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである」を添えて応募しました。今後、ロゴマークを活用し、市民に生物多様性の大切さを伝えていきます。



ロゴマークは、以下の通りです。

☆124 号から始めている自然観察、探索の際、体験した感動、驚き等を紹介するコラム「感動! 驚き! 出会い!」について皆様の投稿をお願いします。字数は 400 字ほど、写真も 1 枚添付願います。編集部までお送り願います。(村元)

【連絡先】

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768

会 計 加藤 秀史 001-0926 札幌市北区新川 6 条 15 丁目 5-10

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 加藤 秀史

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 047-0155 小樽市望洋台 3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 064-0946 札幌市中央区双子山 1 丁目 12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡他は 佐藤修 060-0004 札幌市中央区北 4 条西 13 丁目 1-47-303

TEL/Fax 011-272-3038 E-mail zd844422@xf6.so-net.ne.jp

編 集 部は

村元 健治 006-0552 札幌市手稲区星置 2-8-7-30

TEL 011-694-5907

E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

事故発生等緊急時はケイティエス 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

表紙写真 山口絃司



自然観察 2018 年 10 月 15 日／第 126 号
年 3 回発行

(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協議会